

コラム – 東南アジア大陸部の太陰太陽暦

東南アジア大陸部の太陰太陽暦はインドの『スールヤ・シッダーンタ』に源流を持つ。このため下表のように、インド暦の月名と東南アジア大陸部の暦の月名を対応付けて一覧表にすると見やすい。「暦のルール」欄については「太陽の白羊宮入り」以下の説明を参照していただきたい。

太陰月の サンスクリッ ト名	タイ語読み	日数	カンボジア		タイ			ラオス	ミャンマー	
			真臘 風土記	現代	中国領内 傣族	チェ ン マ イ	スコタイ		大部分	アラカン
Mārgaśīra	ミッカシラ	29	二月	Sahas	登甘	3	1	Aai	Tieng	Nadaw
Pauṣa	プッサヤ	30	三月	Sahasya	三月	4	2	Yi	Gni	Pyatho
Māgha	マーカ	29	四月	Tapas	四月	5	3	Sam	Sam	Tabodwe
Phālguna	パクナ	30	五月	Tapasya	五月	6	4	Si	Si	Tabaung
Caitra	チットラ	29	六月	Madhu	六月	7	5	Ha	Ha	Tagu
Vaiśākha	ヴィサーカ	30	七月	Madhava	七月	8	6	Hok	Hoc	Kason
Jyaiṣṭha	チェータ	29/30	八月	Çukra	八月	9	7	Chet	Tiet	Nayon
Āṣāḍha	アーサータ	30	九月	Çuci	九月	10	8	Paet	Pet	Wazo
Śrāvaṇa	サーワナ	29	十月	Nabhas	十月	11	9	Kao	Kao	Wagaung
Bhādrapada	パットラポ ット	30	十一月	Nabhasya	十一月	12	10	Sip	Sip	Tawthalin
Āśvina	アッサユッ ト	29	十二月	Isha	十二月	1	11	Sip et	Sip et	Thadingyut
Kārttika	ガティカ	30	正月 (佳得月)	Urja	登景	2	12	Sip song	Sip song	Tazaungmon
暦のルール	閏年に重複 させる月	30	Āṣāḍha							Caitra
	閏年の配置		記載 なし	太陽の白 羊宮入り	19年 7閏	太陽の白羊宮入り				19年 7閏
	Jyaiṣṭha 月末に置く 閏日			平年のみ配置可能					閏年のみ配置可能	

周達観(1260頃 - 1346以降)『真臘風土記』は元朝の使節が1296年から翌年にかけてアンコールワット全盛期のカンボジアを訪問した記録である。同書に見える暦法は、すでに現在の暦とおおよそ共通する姿となっていたことがわかる(月の大小の記述はない。水かけ祭りをPhālguna月に行う点のみ異なる)。

1. 太陽の白羊宮入り

東南アジア大陸部では太陽の白羊宮入りを太陽暦の新年とし、水かけ祭りを行って祝う習慣がある。タイの十干にあたるソックは伝統的にはこの太陽暦の新年(ソック・マイ)に変わった。

東南アジア大陸部の暦の源流となった『スールヤ・シッダーンタ』ではユリウス暦紀元前3102年2月18日夜半を元期とし、恒星年に相当する365.258756日ごとに太陽の白羊宮入りが起こるとしている。これは西暦285年ごろに太陽が当時の春分点を通過する日時を観測して決めた暦定数である。現在では

歳差によるずれが起こり、計算上の太陽の白羊宮入りはグレゴリオ暦の4月13日ごろになっている。東南アジア大陸部の暦は、恒星年の日数の小数点以下6桁目を切り捨てるなど若干の簡素化を行っているが、計算結果に『スールヤ・シッダーンタ』との差はほとんどない。中国領内の傣族では、水かけ祭りの日数は、太陽の白羊宮入りの間隔が365日の場合3日、366日の場合4日であった。

最近グレゴリオ暦が日常生活に浸透してきたため、水かけ祭りをグレゴリオ暦の4月13日から3日間ないし4日間に固定するところが増えてきた。

2. 年

平年は12か月、閏年は13か月である。閏年にはĀṣāḍha月(ミャンマーのアラカン州ではTagu月)を重複する。閏年の配置は、19年7閏の定まったパターンで配置する方式(Makaranta)と、太陽の白羊宮入りの日がおおむねCaitra月白分6日からVaiśākha月白分5日の間になるように配置する方式(Thandeikta)の2種類ある。タイの太陰太陽暦の新年はCaitra月白分1日であり、タイの十二支にあたるピーは伝統的にはこの太陰太陽暦の新年(ピー・マイ)に変わった。釈迦の誕生・成道・入滅は翌Vaiśākha月の満月とされるが、これは西行法師の「願はくは花の下にて春死なん、そのきさらぎの望月のころ」でも知られる通り、広く普及した伝承である。

3. 月

インド暦のアマーンタ法に相当し、15日間の白分と14日間または15日間の黒分からなる。原則として月の日数は固定だがJyaiṣṭha月のみ日数調整のため小(29日)にも大(30日)にもなる。ミャンマーでは閏年のみJyaiṣṭha月を大にできる。その他の地域では逆に平年のみJyaiṣṭha月を大にできる。

4. 朔閏パターン

下記のパターンのうちミャンマーではA,C,D、その他の地域ではA,B,Cが使われる。

- A Jyaiṣṭha月が29日の平年(354日)
- B Jyaiṣṭha月が30日の平年(355日)
- C Jyaiṣṭha月が29日の閏年(384日)
- D Jyaiṣṭha月が30日の閏年(385日)

[文献]

和田久徳(1989)訳, 周達観著『真臘風土記』, 平凡社(東洋文庫 507).

J.C.Eade(1995): “The Calendrical Systems of Mainland South-East Asia” , E.J.Brill.

A.M.B.Irwin(1909): “The Burmese & Arakanese Calendars” ,The Hanthawaddy Printing Works.

Rene de Bernal(1959): “Kingdom of Laos – The land of the million elephants and of the white Parasol” ,A. Bontemps Co.,Ltd.

コラム – インドネシアの暦

インドネシアの暦は、210 日周期のウク周期を共通要素とし、まずヒンドゥー教の波を受けてインド暦が現地化し、次にイスラームの波を受けてイスラーム暦が現地化するという複雑な経緯を経ている。この結果イスラーム化したジャワ島にはジャワ・イスラーム暦ができ、イスラーム化の波が及ばなかったバリ島にはインド式のシャカ暦が残ることとなった。

1. ウク周期

日本の暦では、日の干支は 10 日周期の十干と 12 日周期の十二支の組み合わせで構成され、諸々の不
断の暦注は日の干支のみから撰日される。インドネシアの暦で日の干支の役割を演じるのがウク周期で
ある。ウク周期は世界共通の七曜(Minggu/Redite[5], Senin/Coma[4], Selasa/Anggara[3],
Rabu/Buda[7], Kamis/Wraspati[8], Jumat/Sukra[6], Sabtu/Saniscara[9])とインドネシア独自の五曜
(Paing/Paing[9], Pon/Pon[7], Wage/Wage[4], Kliwon/Kliwon[8], Legi/Umanis[5])・六曜
(Tungle/Tungleh, Aryang/Aryang, Warukung/Urukung, Paningron/Paniron, Uwas/Was,
Mawulu/Mawulu)を組み合わせ、これらの最小公倍数である 210 日を周期とする(七曜・五曜の名称は<
ジャワ/バリ>の対で表記した。七曜・五曜に[]で付加した数は Urip と言い、七曜・五曜の Urip の和で
撰日される暦注がある)。ジャワの七曜名が主にアラビア語に由来するのに対し、バリの七曜名はヒンド
ゥーの神の名称に由来する。ウク周期の日付のみで撰日される暦注を下表に示す。バリのウク周期はジャ
ワに比べて多様な暦注を持ち、ウク暦といい得る複雑さがある。

暦注			撰日法
週	ジャワ	バリ	日または七日週への配当法
一日週	Ekawara	—	Urip の和が偶数のとき値なし、奇数のとき第 1 値を日に配当する。
二日週	—	Dwiwara	Urip の和が偶数のとき第 1 値、奇数のとき第 2 値を日に配当する。
三日週	—	Triwara	3 日周期で 3 値を順に日に配当する。
四日週	—	Tjaturwara	八日週の第 1-4 値のとき第 1-4 値、第 5-8 値のとき第 1-4 値を日に配当する。
五日週 (五曜)	Pasaran	Pantjawara	5 日周期で 5 値を順に日に配当する。
(六曜)	Paringkelan	Perinkelan	6 日周期で 6 値を順に日に配当する。
六日週	—	Sadwara	6 日周期で 6 値を順に日に配当する。
七日週 (七曜)	Minggu	Septawara	7 日周期で 7 値を順に日に配当する。 Minggu は「七日週」と「日曜」の両義がある。
八日週	—	Astawara	8 日周期で 8 値を順に日に配当し、72-73 日目は第 7 値を繰り返す。 74 日目を第 8 値とし、以後再び第 1 値から 8 値を順に日に配当する。
九日週	—	Sangawara	最初の 3 日は第 1 値を配当し、次に 23 回 9 日周期で第 1 値から 9 値 を順に日に配当する。
十日週	—	Dasawara	Urip の和を 10 で割った余りが 0-9 のとき第 1-10 値を日に配当する。
—	—	Watek	Urip の和で 12 値を日に配当する。
—	—	Lintang	35 日周期で 35 値を順に日に配当する。
—	—	Ingkel	6 週周期で 6 値を順に七日週に配当する。
—	Wuku	Wuku	30 週周期で 30 値を順に七日週に配当する。

週	第1値	第2値	第3値	第4値	第5値	第6値	第7値	第8値	第9値	第10値
一日週	Luang									
二日週	Menga	Pepet								
三日週	Pasah	Gelang Tegeh *	Kajeng							
四日週	Sri	Laba	Jaya	Menala						
六日週	Mina	Taru	Sato	Patra	Wong	Paksi				
八日週	Sri	Indra	Guru	Yama	Ludra	Brahma	Kala	Uma		
九日週	Dangu	Jangur	Gigis	Nohan	Ogan	Erangan	Urungan	Tulus	Dadi	
十日週	Pandita	Pati	Suka	Duka	Sri	Manuh	Manusa	Raja	Dewa	Raksasa
Ingkel	Wong	Sato	Mina	Manuk	Taru	Buku				

* G. Tegeh と略す。Beteng ともいう。

No.	Lintang	Watek
1	Gajah	[14] Suku-Gajah
2	Kiriman	[11] Gajah-Lembu
3	Jong Sarat	[7] Watu-Lembu
4	Tiwa-Tiwa	[15] Wong-Lembu
5	Sangkatikel	[13] Buta-Uler
6	Bubu bolong	[15] Wong-Lembu
7	Sungenge	[16] Gajah-Lintah
8	Uluku	[9] Suku-Uler
9	Pedati	[12] Watu-Lintah
10	Kuda	[8] Buta-Lintah
11	Gajah-Mina	[16] Gajah-Lintah
12	Bade	[15] Wong-Lembu
13	Maglut	[10] Wong-Gajah
14	Paglangan	[17] Watu-Uler
15	Kala Sungsang	[10] Wong-Gajah
16	Kukus	[13] Buta-Uler
17	Asu	[10] Wong-Gajah
18	Kartika	[11] Gajah-Lembu
19	Naga	[16] Gajah-Lintah
20	Banyakangrem	[11] Gajah-Lembu
21	Ru	[18] Buta-Gajah
22	Patrem	[12] Watu-Lintah
23	Lembu	[8] Buta-Lintah
24	Dpat	[11] Gajah-Lembu
25	Tangis	[12] Watu-Lintah
26	Salar Ukur	[17] Watu-Uler
27	Prahu Pgat	[13] Buta-Uler
28	Pwuhu atarung	[13] Buta-Uler
29	Lawean	[13] Buta-Uler
30	Kelapa	[9] Suku-Uler

No.	Wuku(ジャワ)	Wuku(バリ)
1	Sinto	Sinta
2	Landep	Landep
3	Wukir	Ukir
4	Kurantil	Kurantir
5	Tolu	Tulu
6	Gumbrek	Gumbreg
7	Warigalit	Wariga
8	Warigagung	Warigadian
9	Julungwangi	Julungwangi
10	Sungsang	Sungsang
11	Galungan	Dunggulan
12	Kuningan	Kuningan
13	Langkir	Langkir
14	Mondosijo	Medangsiya
15	Julungpujut	Pujut
16	Pahang	Pahang
17	Kuruwekut	Krulut
18	Marakeh	Merakih
19	Tambir	Tambir
20	Medangkungan	Medangkungan
21	Maktal	Matal
22	Waye	Uye
23	Menahil	Menail
24	Prangbakat	Prangbakat
25	Bolo	Bala
26	Wugu	Ugu
27	Wayang	Wayang
28	Kulawu	Kelawu
29	Dukut	Dukut
30	Watugunung	Watugunung

31	Yuyu	[12] Watu-Lintah
32	Lumbung	[14] Suku-Gajah
33	Kumba	[12] Watu-Lintah
34	Udang	[14] Suku-Gajah
35	Bgoong	[14] Suku-Gajah

2. バリ島のシャカ暦

バリ島のシャカ暦はインド式の太陰太陽暦が現地化したものである。周辺地域の太陰太陽暦との主な共通点および相違点を下記に示す。

インド式の太陰太陽暦との主な共通点:

- ・1 暦日に 2 太陰日が割り当てられる「欠日」がある。
- ・インドのアマーンタ法と同じく朔望月を満ちる半月(白分)と欠ける半月(黒分)に分けて表す。
- ・インドと共通する紀年法であるシャカ紀元を用いている。

インド式の太陰太陽暦との主な相違点:

- ・「欠日」は正確に 63 日目ごとにあり、1 太陰日が 2 暦日にまたがる「余日」はない。
- ・19 年 7 閏法により閏月の配置を固定しており「欠月」はない。
- ・インドのアマーンタ法とは逆に閏月は本来の月の後に配置する。

現在のインド式の太陰太陽暦に「余日」や「欠月」があるのは、太陽や月の運動の遅速を考慮に入れているからであるが、古くはインドでも「余日」や「欠月」はなかったという。

東南アジア大陸部の太陰太陽暦との主な相違点:

- ・暦月の途中に「欠日」が現れ、同一の月番号の暦月の日数が毎年異なる。
- ・閏月の配置の決定にソクラーンが関与しない。
- ・新年はニュヒ(Vaiśākha 月に相当する Kadasa 月の白分 1 日)である。

ただし、バリ島の東に位置するロンボク島では新年は Caitra 月に相当する Kasanga 月である。

上記にみるようにバリ島のシャカ暦は 63 暦日=64 太陰日、19 太陽年=235 朔望月であり、

1 朔望月 = $30 \text{ 日} \times 63 \div 64 = 29.53125 \text{ 日}$

1 太陽年 = $235 \text{ 朔望月} \div 19 = 365.25493 \text{ 日}$

となる。63 暦日目はちょうど 9 週間目にあたるため「欠日」は常に同じ七曜になる。これは七曜を含むウク暦との親和性を高めるための工夫である。これらの暦定数は、ルールが単純な割には精度が高いが、長期間使用するには不十分である。このため、「欠日」とする曜日の割り当てや閏月の配置は頻繁に改訂されてきた。典型的な方式ではシャカ紀元を 19 で割った余りが 0,6,11 なら Desta 月を、余りが 3,8,14,16 なら Sadha 月を繰り返して閏月とする。

下図に Bangbang 氏編集のバリ・カレンダーのグレゴリオ暦 2012 年 6 月 19 日欄を示す。6 月 19 日火曜日は 9 週間目ごとの「欠日」にあたり、シャカ暦 1934 年 Sadha 月黒分 15 日でありかつ Kasa 月白分 1 日でもある。中央の 19 はグレゴリオ暦日、●は朔を意味する。七曜表中に配置されているため日付欄自体に七曜の記載はないが、その他の 2 日週～10 日週はすべて記載されている。

イスラーム暦月
中国農曆月
(五月)

三日週

六日週

十日週

八日週



イスラーム暦日

中国農曆日

Ingkel

五日週

四日週

シャカ暦日
(黒分15日/白分1日)

二日週

九日週

十二宮

(ふたご座の30日)

シャカ暦月

(通常のSadha月)

3. ジャワ・イスラーム暦

ジャワ島のヒンドゥー・ジャワ暦も、もともとはバリ島のシャカ暦と同じく太陰太陽暦であった。しかしジャワ島はイスラーム化の波にさらされ、ジャワ暦は17世紀の前半に純太陰暦化した。シャカ紀元1547年ころ次に述べる8年周期のパターンが成立し、8年後のシャカ紀元1555年にマラタム王国のスルタン・アグンが公式に採用したのである。この純太陰暦化したジャワ暦をジャワ・イスラーム暦と呼ぶ。ジャワ・イスラーム暦1555年1月1日 Legi Warukung Jumat はイスラーム暦1043年1月1日(グレゴリオ暦1633年7月8日)金曜日にあたる。純太陰暦と太陰太陽暦では1年の長さが異なるので、以後ジャワ・イスラーム暦の年数はシャカ紀元との対応を失い、ヒジュラ紀元と512年差となった。

イスラーム暦もジャワ・イスラーム暦も純太陰暦であるが、イスラーム暦が30年に11回閏日を置くのに対しジャワ・イスラーム暦は8年に3回閏日を置く。354日×8+3日は2835日で、ウク周期の13.5周期分に等しい。五曜・七曜など多くの暦注が8年周期で同じパターンを繰り返すのでウク周期と親和性が高いのである。ジャワ・イスラーム暦ではこの8年周期のことをウィンドゥ(Windu)と呼びその各年に名前がついている。8年3閏では120年でイスラーム暦と1日のずれが生ずるため、イスラーム暦と同期するよう適宜1日削除して調整する。ある調整と次の調整の間の期間ウィンドゥの初日の七曜は変わらない。調整で発生するジャワ・イスラーム暦のヴァリエーションを「金曜暦」などのようにウィンドゥの初日の七曜で識別することがある。

下表にウィンドゥを構成する年の名称と月の日数の配当を示す。マラタム王国はその後スラカルタ侯国とジョグジャカルタ侯国に分裂したが、表中の実施年代は前者のものである。Je年とDal年の見直しが多いのはGerebeg Muludの祭りが行われるDal年3月12日の七曜を月曜、五曜をPonに固定するためであった。Je年でなくDal年を閏年とし続けるなど、実際にはさらにヴァリエーションがある。

Type	パターン	月の日数											
		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
V	平年	30	29	30	29	30	29	30	29	30	29	30	29
F	閏年	30	29	30	29	30	29	30	29	30	29	30	30
D	Dal年の特別パターン	30	30	29	29	29	29	30	29	30	29	30	30

No.	年の名称	Type (年次はジャワ・イスラーム暦 *)
1	Alip	常に V
2	Ehe	通常は F, 1748 年(「木曜暦」→「水曜暦」)のみ V
3	Jimawal	常に V
4	Je	1670 年までは V, 1678 年以降 F
5	Dal	1671 年までは F, 1679 年～1743 年の間 V, 1751 年以降 D
6	Be	常に V
7	Wawu	常に V
8	Jimakir	通常は F, 1674 年(「金曜暦」→「木曜暦」)と 1866 年(「水曜暦」→「火曜暦」)は V

* 2012 年版のバリ・カレンダーによれば、1866 年以降もう 1 日調整があり、現在は「月曜暦」になっているようである。

4. インドネシアの太陽暦

インドネシアでは多様な太陽暦が使われてきた。

a. バリ島の十二宮

バリ島のカレンダーに記載されている十二宮はインド式の太陽暦が現地化したものである。月の名称と日数を下表に示す。Mesa 月の第 1 日はグレゴリオ暦の 3 月 21 日頃となるようである。

Mesa	Wrasaba	Mintuna	Rekata	Singa	Kaniya	Tula	Mercika	Danuh	Mekara	Kumba	Mina
30	31	31	31	31	31	30	30	30	30	30	30/31

b. テンガナン暦

バリ島東北部のテンガナンの暦で、3 年 1095 日(つまり平均 365 日)を周期とし 26～30 日の月からなる、三日週・五曜と同期した独特の暦である。月の名称と日数を下表に示す(閏日はない)。第 3 年は Kapat 月(30 日)の後に Kapat Sep 月(27 日)が続く。グレゴリオ暦 1984 年 1 月 29 日が 1095 日周期の第 1 日(Kasa 月 1 日)にあたる。

年	Kasa	Karo	Ketiga	Kapat	Kelima	Kanem	Kepitu	Kolu	Kesanga	Kedasa	Desti	Sadda	合計
1	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
2	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	26	26	352
3	30	30	30	30+27	30	30	30	30	30	30	28	28	383

c. プラノトモンソ

プラノトモンソはジャワ島固有の太陽暦である。スラカルタ侯国の Paku Buwono 7 世が西暦 1855 年に現在の形にしたもので、その年の北半球の夏至にあたる日を 1 月 1 日とした。月の名称と日数を下表に示す。

No.	月の名称	日数	初日のグレゴリオ暦日	正午の影の長さ(相対値)	
1	Kasa	41	6 月 22 日頃	南	4
2	Karo	23	8 月 2 日頃	南	3
3	Katelu	24	8 月 26 日頃	南	2
4	Kapat	25	9 月 19 日頃	南	1
5	Kalima	27	10 月 13 日頃	北	0
6	Kanem	43	11 月 9 日頃	北	1
7	Kapitu	43	12 月 22 日頃	北	2

8	Kawolu	26/27	2月3日頃	北	1
9	Kasanga	25	3月1日頃	北	0
10	Kasapuluh	24	3月26日頃	南	1
11	Dhestal	23	4月19日頃	南	2
12	Sadha	41	5月12日頃	南	3

各月の日数が大きくばらつくのは、正午の太陽がつくる垂直に立てた棒の影の長さで月の日数が決まるためである。すなわち、ジャワ島(南緯約6度)での北半球の夏至にあたる日の影の長さを南に4単位、北半球の冬至にあたる日の影の長さを北に2単位とすると、各月の初日の影の長さが単位の整数倍に近くなるようになっている。この暦はジャワ島固有の季節感に根差したジャワ島独特の暦といえる。

[文献]

小島麗逸・大岩川嫩(1987)編:『「こよみ」と「くらし」』, アジア経済研究所.

五十嵐忠孝(1994):「バリのこよみ・考」, 東南アジア学フォーラム FORUM 通信 No.11.

Iwan Gayo(1991): “Buku Pintar” , Upaya Wagra Negara.

Eiseman, Fred B.(1985): “BALI: Sekala and Niskala” , Denpasar.